

# 幼児教育と遊び

## Early childhood education and play

山中 嘉人

Yoshito YAMANAKA

(要旨)

平成27年度4月から新たに、子ども・子育て支援新制度が本格的に始まろうとしており、従来の幼稚園の機能と保育園の機能を併せ持つ認定こども園の普及に向けた取り組みが各地方自治体で行われている。そこで幼児教育の中心的な学びである遊びに焦点を当て、遊びの分類とその教育的効果について述べた。遊びの教育的効果に関しては遊びの種類によって異なるが主に、体力の向上や運動能力、巧緻性の発達を促す身体的・運動的価値、仲間と共に遊ぶことによって人間関係のあり方や社会生活のルール、また集団の中での自分の立場等を学ぶことができる社会的価値、創造力をはたかせながら絵を描いたり、物を作って遊ぶことで創造性を高め知的発達につながる知的価値、遊びに起因する精神バランス状態の回復による治療的価値や空間的、数量的知識、論理数学的知識等があることを述べた。

キーワード：幼児教育、遊び、遊びの教育的効果

## 1. はじめに

平成24年8月より、日本の子ども・子育てをめぐる様々な問題を解決するために、子ども・子育て支援法が制定された。そしてこの法律と関連する3つの法律に基づいて、新たに幼児教育や保育、地域の子ども子育て支援の充実や質の向上を目指していく、新たな制度として、平成27年度4月から新たに、子ども・子育て支援新制度が本格的に始まろうとしており、従来の幼稚園の機能と保育園の機能を併せ持つ認定こども園の普及に向けた取り組みが各地方自治体でとり行われている。

このような新制度の制定による幼児教育の場の増加によって、今後その需要は増えると思われる。そこで今回は遊びを中心に幼児教育について述べていきたいと思う。

## 2. 幼児教育の中での遊び

幼児教育において遊びは幼児期の成長や発達を促す活動として重要視されており、文部科学省の「幼稚園教育要領」<sup>1</sup>では、第1章第1幼稚園教育の基本に「幼児の自発的な活動としての遊びは、心身の調和のとれた発達の基礎を培う重要な学習である事を考慮して、遊びを通しての指導を中心として第2章に示すねらいが総合的に達成されるようにすること。」と明記されている。ここでいう第2章に示すねらいとは、健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作りだす力を養う事を目的とした「健康」、他の人々と親しみ、支え合って生活するために、自立心を育て、ヒトと関わる力を養う「人間関係」、周囲の様々な環境に好奇心や探究心をもってかかわり、それらを生活に取り入れていこうとする力を養う「環境」、経験したことや考えたことなどを自分なりの言葉で表現し、相手の話す言葉を聞こうとする意欲や態度を育て、言葉に対する感覚や言葉で表現できる力を養う「言葉」、感じたことや考えたことを自分なりに表現することを通して、豊かな感性や表現する力を養い、創造性を豊かにする事を目的とした「表現」の5点を総合的に達成するためのものである。このように日本の幼児教育では遊びという活動がこのように位置づけられている。

他にも、森(1992)<sup>2</sup>は遊びと教育的役割として体力の向上や運動能力、巧緻性の発達を促す身体的・運動的価値、仲間と共に遊ぶことによって人間関係のあり方や社会生活のルール、また集団の中での自分の立場等を学ぶことができる社会的価値、創造力をはたらかせながら絵を描いたり、物を作って遊ぶことで創造性を高め知的発達につながる知的価値、遊びに起因する精神バランス状態の回復による治療的価値の4点を遊びの教育的価値として述べている。また、森は同著の中で遊びが成立するには少なくとも時間、空間(遊び場)、仲間の3点が必要であると述べ、さらに現在の子ども達の状況について、遊ぶ時間が少なく都市部の小学生は屋内での遊びが増加傾向にありまた、かつてのような異年齢集団からなる遊び仲間から同年齢集団での遊びに変化していると指摘している。

## 3. 遊びの分類

遊びの分類について、田中・中島(2001)<sup>3</sup>はピアジェ(Piaget,J.)とパーテン(Parten,M.B.)の分類を紹介しつつ論じている。その中では、遊びの発達的な側面に関して「ピアジェは多種多様な遊びを、乳幼児の発達的な側面から分類した。それが「機能遊び」、「象

徴遊び]、「ルールのある遊び」という分類である。「機能遊び」はもっとも早い段階で現れる遊びであり、音や身体の動きなどの感覚を楽しむ遊びである。例えば、赤ちゃんががらを振ってその音を楽しむものがこれに当たり、ブランコや滑り台で、特有の身体感覚を味わうのもこの遊びに含まれる<sup>4</sup>と述べている。また、1歳代から始まる身近な物を通して行うふり行為は幼児期後半になるにつれより複雑なごっこ遊びへと発展しこれを「象徴遊び」と紹介している。最後の「ルールのある遊び」は、「ルールを含む遊び全般を含むため、カルタなどの室内遊びから、鬼ごっこ、ドッジボールなどの体を使った遊びまで含んでいる。これはルールの理解、またルール勝敗が結びつくことを理解するために知的発達が必要であるため、幼児期後半から盛んになる。」と解説した上で「この分類にある遊びは、その発達段階において特有の遊びをあげているのであり、次の遊びへ移り変わった時、前の段階で見られた遊びが全く姿を消すのではないのである。」<sup>5</sup>と注意を促している。

次に、遊びを仲間との関わりから分類したものとしては、パーテンによる「何もしない行動」、「傍観的遊び」、「ひとり遊び」、「平行的遊び」、「連合的遊び」、「共同的遊び」の6つの分類である。「傍観的遊び」とは自分は遊びに参加せず、遊びを第三者的に見ている行動であり、「ひとり遊び」は他の幼児と関わりなく行われる遊びを指す。「平行的遊び」とは、多少周りの子どもに関心を抱いた状態で、同じ遊びをすぐそばで行っているにもかかわらず、かかわりを持たない段階を呼び、さらに「連合遊び」の段階になると、友達とかかわりながら遊ぶようになるが、友達同士での結びつきが弱い、しかし「共同的遊び」の段階になると、遊びのテーマや役割が自他ともに認識され、これまでより複雑な遊びが可能となる。

#### 4. 遊びの教育的効果

幼児教育において遊びが重要視されることは前述にもある通りだが、ここではもう少し詳しく遊びの教育的効果について述べたいと思う。遊びの教育的効果についてC・カミイ(2008)<sup>6</sup>はごっこ遊び、積木遊び、鬼遊び、シーソー、スベリ台、ブランコ等の遊具を使った遊びの4点についてその教育的価値について述べている。それによると、ごっこ遊びは、子どもたちがごっこ遊びによって経験したことや体験していないことを自由に表現する機会の場を与え、例えば、お店屋さんごっこなどを通して、物を買うためにはお金が必要であるといった社会的知識や、料理を提供するために料理を作るふりをするといった事物の物理的特性の向上を助長することができる。また、おままごとといった役割を明確にした遊びの場合、今まで経験してきた知識を活用して病気になれば病院へ連れて行く、医者になり注射を打つといったより現実に即した行動ができるようになる。このようなごっこ遊びを通して子どもたちはより知識を豊かにしていくのである。積木遊びに関しては、物と関わる遊びのひとつと言え、自由に積木を組み立てて建造物を作ることができる。例えばタワーを作ろうとした際には、どのようにしたら高いタワーを作ることができるか、どのくらいの高さにするか、またどの積木をどこに置いて終わりとするかといった主に論理数学的知識の発達に有効であるとしている。鬼遊びについては、前述のルールのある遊びと

同じく、ルールに基づいて行動しなければならないという社会的知識や、鬼が鬼ではない子を捕まえるために鬼とそうでない子を分類し、捕まえやすい子を探し捕まえるにはどのようにすればよいかを空間的、時間的に考えるといった思考が瞬時に何回も訪れるという点である。シーソー、スベリ台、ブランコ等の遊具を使った遊びに関しては、やはり物と関わる遊びの中でその遊具を通して学ぶことができる。シーソーにのって遊ぶという点に関しては、重い物は下がり、軽い物は上がるといった物理的知識や、シーソーが上がったままで下がらない時にはどうすれば下がるかを思考錯誤し、位置を後ろにすればよいという空間的関係を学ぶことにつながる。他にもスベリ台では滑る位置により速さが変わるということや、ブランコではこげばこぐほど揺れ幅が増えることを学ぶことができる。このように子どもたちは遊びという様々な活動を通して知識をより豊かなものにし、学ぶ事ができる。また、このような物と関わる遊びを行う際に保育者は、子どもたちの自発的活動を促すように配慮し、遊びの初め子どもたち全員が自分で使用して遊ぶことができる用具を提供してあげ、徐々に集団的な遊び体系を整えてあげる事が望ましい。また、子どもたちに考える力を養わせるためになるべく遊具の遊び方を教えたり、子どもたちの遊び方について保育者自身の価値観にとらわれず柔軟な共感や理解を示すことも必要である。

## 5. おわりに

これまで述べてきたように幼児教育において遊びとは切っても切り離すことのできない大切な学習の場であり尊重されるべき活動であることは言うまでもない。しかし近年子どもの遊び内容の変化や待機児童等の問題があり、より効果的な遊びを行う場が減少しているのではないだろうかと考える。平成27年度4月から新たに始まる子ども・子育て支援新制度がこういった問題の現実的な解決に早急につながる事に期待したい。

### 註

- 1 文部科学省「幼稚園教育要領」  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm) 2014/12/23確認
- 2 森椋『教職科学講座10 幼児教育学』福村出版, 1992年
- 3 田中亨胤・中島紀子編著「MINERVA 教職講座⑫ 幼児期の尊さと教育」ミネルヴァ書房, 2001年
- 4 同上, pp.43
- 5 同上, pp.43-44
- 6 コンスタンス・カズコ・カミイ, 加藤泰彦編著「ピアジェの構成論と幼児教育 I 物と関わる遊びをとおして」大学教育出版, 2008年

### 引用・参考文献

1. 文部科学省「幼稚園教育要領」  
[http://www.mext.go.jp/a\\_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm](http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/you/index.htm) 2014/12/23確認
2. 森椋『教職科学講座10 幼児教育学』福村出版, 1992年
3. 田中亨胤・中島紀子編著『MINERVA 教職講座⑫ 幼児期の尊さと教育』ミネルヴァ書房, 2001年
4. コンスタンス・カズコ・カミイ, 加藤泰彦編著『ピアジェの構成論と幼児教育 I 物と関わる遊びをとおして』大学教育出版, 2008年